検討資料

https://kishidaisuke.com

区民をないがしろにする
“無責任”と闘う！

目黒区議会議員
無所属
岸 大介

岸 大介 プロフィール

1973年 区内 長内医院にて生まれる
1986年 トキワ松学園小学校 卒業
1992年 秀明高校 卒業
1998年 東北芸術工科大学 デザイン工学部 卒業
2003年 NY市立大学ハンターカレッジ 経済学部 卒業
2005年 コロンビア大学 SIPA国際･行政学大学院 卒業 行政学修士
2007年 会社員、政党職員（本部国際局･都議会政策調査会等）を経て
2017年 衆議院議員（元復興副大臣、元文部科学大臣） 政策担当秘書
2018年 帰郷後、地域活動を始める
2019年 目黒区議会議員 初当選（現在1期目）

その他

防災語学ボランティア、防災士、
消防団所属（特殊技能団員:大型車･特殊重機･危険物取扱い）

個人・嗜好

家族：妻、息子、犬、ネコ
趣味：社交ダンス（ジルバ）、Perfume（アーティスト）、
四国遍路、城址城跡・銭湯巡り
好きな食べ物：蕎麦、カレー、牡蠣、無花果、純米酒
好きな歴史上の人物：仁科盛信（武田勝頼公実弟）
河井継之助（長岡藩家老）
好きな言葉：明日、世界が滅びるとしても 今日、君はリンゴの木を植える

連絡先：岸 大介
住　所：〒152-0033 目黒区大岡山1-13-10-1F
ＴＥＬ：090-3360-3286　ＦＡＸ：3724-1941
Email：info@kishidaisuke.com

個人献金のお願い

私の考えに、お力をお貸しください！
貴方様からのご献金をお待ち申し上げます。（1口/3000円より）

振込先　郵便振替　00120-6-487566
みずほ銀行　大岡山支店　普通　2339974

ご挨拶

平素は岸大介の議会活動にご支援、ご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

先の読めぬ複雑な昨今であります。ちょっと前までは感染症の事や、ワクチン接種が話題の中心でありましたが、最近はウクライナでの戦争と、それを発端とした、複雑化した国際情勢の変化、それにモノやサービスの値上げが加わり、社会全体にどんよりとした影を落としている様に感じております。しかし、我が国も国際社会･国際政治経済の荒波の中で、立ち往生する訳にはいかない。その為にも、我々は、私自身も、地域社会の中で出来うるすべての事に精力を注いで参りたい、そう思うものであります。

本日、リーフレットをお届け致します。〝岸〟の活動報告の一端とさせて頂ければ幸いです。

勝手ながら、貴方様のご多幸を祈念致しております。

令和四年 秋

目黒区議会議員
岸 大介

3つの基本姿勢　子供世代にツケを残さない！　スジを通す！　フェアな世をつくる！

活動報告5大トピック

●令和4年度 夏の議会にて“一般質問”を行いました!!（裏面に関連記事）

Youtube岸大介チャンネルで
令和4年度 夏の議会“一般質問”の
動画を公開しておりますので、
ご覧ください。

演壇より

●お世話になった石原さん。お別れ会に伺いました。（表紙写真）

石原選対1999年 遊説隊として
この選挙を原点として
“立国は公にあらず 私なり”と
学びました。

岸大介Facebookで、
石原さんへの想いに
ついて文章を投稿して
おりますので、
ご覧ください。

●本年度は文教子供委員会に配属されました。視察にて、東山中学校・油面小学校・駒場小学校・第９中学校に伺いました!!

文教子供委員として、区内の小・中学校の現場視察に　着衣水泳の授業

図工の時間　普通にタブレットも利用しています。

WEB・SNSでも活動を発信しております

Web　Facebook　Instagram　Youtube

●地元住区の町会交流運動会に家族3人で参加しました!!

大熱戦の“綱引き”と“タマ入れ”！

アンカー

●沖縄にお邪魔しました!!（視察を兼ねて、墓参りと、妻親戚筋へ第1子が産まれたご挨拶に）

沖縄平和記念公園「平和の礎」、
東京都からの出征者として
3521柱の刻銘がある

旧海軍司令部壕
「沖縄県民斯く戦えり。県民に対し、
後世特別の御高配を賜らんことを。」
太田指令電文より、涙なしに読めませんでした。

沖縄の“お墓”、
義祖父（隼の特攻隊の生き残り）も眠る。
広い墓前では、一族の宴会もやるとの事。

令和4年 夏の議会にて“一般質問”を行いました。

▶Youtube岸大介チャンネルで
令和4年 夏の議会にて“一般質問”の動画を
公開しておりますので、ご覧ください。

戦後総括と本区の取り組みについて

大東亜戦争終戦から77周年という節目でもあり、沖縄の本土復帰50周年である本年であるが、本区として戦後の総括はどの様なものだったのか伺う。

我が国がどの様な歴史を積み重ねて、この状況下に今の立ち位置を築いているのか。或いは、そもそも戦後の社会がどの様な経緯でここまで発展してきたのか等。普段あまり詰めて考える事の無い、“歴史”に関して想いを馳せるには、今程、諸事情が整っているタイミングは無いと思います。本来であれば先の大戦を総括し、整理・理解して、教育全般に取り入れてゆかなければならない。ところが昭和史に触れる事は何となくタブーである様な感覚、またそれに対する違和感といいますか、先祖や地域の護国神社に手を合わせる度に、何か大切なモノを置き忘れてしまっている感を禁じ得ないというのは、高々48歳の私だけではないと思います。

今年は終戦から77周年という節目でもあり、この夏にはひとしお大きな意味合いを持つ催事も開催される事と思います。また、過日5月15日をもちまして、沖縄返還50周年という事で報道された事も記憶に新しい所でありますが、これまで本区で行われてきた戦後教育がどの様なものであったのか、並びに社会意識の啓発・醸成という事ではどの様な取り組みが行われてきたのか、伺います。また、先人達、大東亜戦争中に出征先で戦死された方々、関連死された方々への慰霊、並びに戦災と区民という意味で犠牲になった方々に対してはどの様に弔意を示し、名誉を守る為の取り組みをなされてきたのか伺います。合わせまして、本区庁舎にて半旗掲揚するのは年間で何日あるのか、何の日に半旗・弔旗を掲揚されているのか伺います。

《再質問》諸々の取り組みや考え方のご説明を拝聴致しました。そして象徴的な事実としては、本区では弔旗を挙げるのは年2回、終戦記念日と東日本大震災の日との事でありました。私、気になるのは、毎年予算委員会の2日目の総括質疑の時に、質問の順番が回って来るのですが、いみじくもその日は3月10日の東京都平和の日であったり、3月11日の東日本大震災の日であったりします。両日ともこの本会議場には弔旗を揚げております。一方で庁舎玄関正面の国旗に目を移せば、10日の東京都平和の日には平常の掲揚で、11日の東日本大震災の日には半旗にするという事実がございます。この区別にはどういう意味があるのか？という事で常々違和感をもっておりました。**つまり東京都平和の日に、この議場は弔旗掲揚して、黙とうは捧げている。だけれども、庁舎南口玄関前に掲揚されている国旗は半旗にはしないという、何というか“チグハグ感”。**たとえ事情がどうあれ、区民一般としてみたら、単に掲揚している国旗を半旗にし忘れた、という様にしか映りません。この事実については、どの様な理由づけをなされているのか？　反面、正午丁度に黙とうを捧げている。その真意は何なのか、伺います。

歴史認識と教育、土着的意識、文化・伝統、風俗というのは、深い所でのアイデンティーの確立、ひいては国や地域の安全保障にまで繋がっておるものです。戦後教育、並びに社会意識の啓発の根柢の所、本区としては、まさか形だけ踏襲してきたという訳ではないと思いますが、どの様に整理・理解すればよいのか、伺います。

《再々質問案》「日本では、どうしても記憶しなければならないことが4つはあると思います。終戦記念日、広島の原爆の日、長崎の原爆の日、そして6月23日の沖縄戦終結の日です。」と、仰っていたのは先帝、明仁上皇陛下が皇太子殿下であった、1981年の事であります。明々後日の23日が「沖縄慰霊の日」でもあります。今、我々はその日を何の日であるのか、「日本人」として言葉に出す事が出来るでしょうか？　遠いかの地に出征されて、戦死された本区区民の方々も大勢いらっしゃった事は言わずもがなであります。

もとい、閣議決定・了解に基づき、本区としても終戦記念日と東日本大震災の両日には、半旗或いは弔旗を揚げて黙とうを捧げるのはある意味“当然”の事だとして、**もう少し主体的に、半旗・弔旗の掲揚を行う機会を持って、社会意識を涵養する事、新しい世代への伝えるという事、国旗（半旗）掲揚という象徴と意味づけを一致させてゆく事を図るべきと思いますが、如何でしょう？** 然るべき時に主体性をもって半旗・半旗を掲揚する判断を自治体が行う事は可能であります。既に365日国旗の掲揚はしているのですから、半分に下げる事は難しくはない筈です。上皇陛下が言及されたこの4日間に加えて、この際、東京都都平和の日、東日本大震災の日、関東大震災の日を合わせた7日間の意味と、今現在につながる慣習は、形骸化しない様に、もう一度問い直す機会であると思います。申し添えておきます。

続きで、以下もう一つ伺っておきます。本区発行の「目黒区史」や「目黒区五十年史」両編纂物はとても重厚なモノであります。及び東京都発行の「東京都戦災史」や「援護と慰霊のあゆみ」にも言及しますが、これらには誤差・編纂時のバラつきはあるものの、東京大空襲の目黒区での犠牲者数という事で数字の記載があります。他方で、本区から出征した先での戦死者の数は見当たらず、どうやら兵籍資料からしか推測する事が出来なさそうだったのですが、旧陸軍は除隊時に都道府県が、旧海軍については厚労省が保管しており、残念ながら資料請求は親族等（6親等内の血族、配偶者、三親等内姻族いんぞく及びその成年後見人・法定代理人）に限られている事情もあり、今回は私からリーチする事は出来ませんでした。また、各論になりますが、沖縄県営平和記念公園の「平和の礎」に刻銘されている東京都出身者としては、本年4月末現在3521柱、東京都が同公園内に建立した慰霊塔の合祀者数としては6500柱としています。ただ、“目黒区民の犠牲者”と括ってしまうと、やはり難しい状況でした。情報公開請求をかけても、「非開示ながらも、情報を把握していない」との知事名での回答が関の山で、大臣経験者の国会議員事務所経由で調べても、同様でありました。

私が言いたいのは、出征先での目黒区民の戦没者数も凡そには目黒区が掴んでおく事、並びに平場に公表しておく事は大事で、それがより深い学びと、慰霊、また弔意を示す機会につながると思うのです。**祖父母達のすぐ横にあった日常と、我々現役世代の存在がつながっているという理解を、もう少し形作る為の仕掛けが、今だからこそ求められていると考えるが如何か？**

⇒《区長答弁》本区では戦後40周年に当たる昭和60年5月3日に目黒区平和都市宣言を行い、犠牲者の追悼、世界の恒久平和及び区民の幸せを願い、毎年様々な平和祈念事業を継続して行っております。そのうち、平和教育に関連する事業としては、広島市小・中学生派遣事業を行い、戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さについて考え、学ぶ機会を提供することで啓発を図っている。また、平和祈念標語の募集を行い、区報に掲載する事で平和都市宣言の趣旨を区民に周知している。このほか、総合庁舎において8月には平和のための写真・資料展を、3月には東京大空襲写真・資料展を開催している。また、同様の趣旨で広島・長崎被ばく写真パネルや、学童疎開の記録写真を展示する巡回写真展を行っている。戦後77年が経過をし、今後ますます戦争体験者が少なくなってくることから、区内の被爆体験者の方々の貴重な体験を記録し、受け継いでゆく目的で、記録集の作成のほか、動画も作成し、目黒区公式Youtubeチャンネルで配信している。いずれにしても、平和教育を含めた平和記念事業については、継続して行ってゆく事に意義がありますので、取り組みに関しては引き続き進めて参りたい。

さきの大戦における日本人戦没者数は310万人、このうち海外における戦没者は240万人と言われており、国内より海外で亡くなられた方々の方が多い状況です。また、海外で亡くなられた方々の遺骨の概数としては、令和4年3月31日現在で128万柱、未収のご遺骨が未だに112万柱あるとされています。また、空襲等による被害としては、区史には被災状況として死者291人、負傷者1153人、全勝家屋2万6095戸、罹災者10万3425日となった旨も記載されている。そこで、弔意とういう意味では、8月15日の終戦記念日には半旗掲揚と黙禱を、3月10日の東京都平和の日にも黙祷を行っている。

ご質問の半旗・弔旗の掲揚する日としては、全国戦没者追悼式が行われる8月15日と、東日本大震災の発生日である3月11日の2日間であり、閣議決定、閣議了解による依頼・協力要請を受けてのものである。当然これは依頼が来たからやったということではなく、そういう意味では形だけの踏襲ではない。私どもとしても、ただ形式的に踏襲した訳ではなくて、国からの依頼を是として対応している。

それ以外に、依頼がないものについてどういった時に私どもが弔意をお示しをし、そしてまた半旗を揚げるかについては、改めて個々の状況をしっかりと踏まえながら判断してゆきたい。また、亡くなられた方々に対する人数等も調べて弔意という話では、率直に申し上げて、現在なかなか把握が難しいという状況で、誤って弔意をするという事こそ大変無礼な話ですので、そこは十分慎重にしたい。とはいっても、一番の弔意ということでいえば、本区が平和と人権をしっかり守ってゆく自治体である事であると思います。

⇒《後日談として》

「来年の3月10日の東京都平和の日からは、ちゃんと弔旗を掲げるようにする。」との連絡が、非公式ながらも岸の携帯に入りました。